



種別	県指定 県重宝 (工芸品)
名称	くろぬりおてらぜんそろい 黒塗御寺膳揃
員数	1揃(13点)・附
内訳	1揃:本膳、二の膳、飯椀、汁椀、汁椀、 大平椀、腰高、壺椀、平皿、大猪口、 木皿、茶台、菓子台 附:箱1合、茶碗1点
指定年月日	平成21年2月18日
所有者	個人
所在地	むつ市

江戸時代末期に製作された、仏事における宴席で使用される輪島塗膳椀の組み物である。本膳、二の膳の一揃と、附として箱、茶碗となる。膳椀には金縁が施され、平皿と大猪口には沈金彫りが加飾されている。また、茶台と茶碗の蓋には所有者の家紋が施されている。附の茶碗は九谷焼である。所有者の家は旧家で、先祖は近江商人であったと伝えられている。

輪島塗漆器の技法と繊細さ、沈金の技術は最上質といえる。また、北海道の地を介して移入された記録も残っており、保存状態も極めて良好である。

※附(ついたり)とは

年代、状態などからそれだけでは指定にあたらない場合でも、指定文化財と一体であることによって価値が生じるものを指しています。